

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491000057		
法人名	社会福祉法人 一心会		
事業所名	グループホーム やまが苑 東ユニット		
所在地	大分県杵築市山香町大字野原1405番地6		
自己評価作成日	令和4年2月14日	評価結果市町村受理日	令和4年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和4年3月29日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然環境に恵まれ、四季の移り変わりを感じながら、その方らしく穏やかに過ごしていただける様に努めています。一人一人に合わせたレクリエーションを取り入れながら、今の状態が維持できるように努めています。敷地内に養護老人ホームやデイサービスがあり、地域の行事等もお互いに協力しながら交流を図っています。コロナ禍のため散歩やドライブ等をとりいれながら気分転換を図っています。医療面では、近隣に協力病院があり、診療科目が多いのも安心です。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・認知症対応型デイサービスやショートステイの指定を受けており、地域のニーズに対応できるように柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。  
 ・コロナ禍で地域との交流が難しい中、苑内を散歩したり、ドライブで車窓からの景色を楽しめるよう支援しており、利用者の気分転換を図っている。  
 ・一人ひとりの思いなどを「井戸端会議」で把握し、職員で統一したケアに努めサービスの向上に活かしている。  
 ・担当職員が、月1回家族へ手紙と写真を同封し、本人の暮らしぶりや健康状態などの近況を伝えている。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と地域密着型に基づいた施設理念を掲げている。施設理念に関してはその時の状況に合わせて作り直し、実情に沿った支援を行っている。	法人理念と事業所理念は地域密着型に基づいた理念を職員で作し、1年に1回見直し、玄関に掲示している。言葉遣いに関して話し合い、敬語より丁寧な言葉でと実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域の祭りや催し物への参加をしていたが、コロナ禍の為地域との交流が出来ていない。	コロナ禍で直接の交流が難しい中、事業所の取り組みを継続して知っていただくため、地域の薬局や区長、民生委員に、また回覧板で事業所の広報紙を届けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	共用型デイサービスやショートステイを整備し、他事業所で受け入れの難しい認知症の方を受け入れられるようにしている。また、運営推進会議であがった意見を積極的に取り入れ参考にしてている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナ禍の為、文書にて開催をしている。運営推進会議では、施設の現況報告・事故報告など取り組み状況を報告し意見を求めている。いただいた意見は早急に検討し、改善に努めている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回書面会議にて実施。事業所の現状報告や取り組みを報告し委員から文書にて意見をもらっている。事故報告(薬)に対してアドバイスがあり、検討した結果、改善につながるなどサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故があつた際は報告を行い、困難事例に関しても相談をしている。また、市が開催する研修へ積極的に参加している。	市の担当者は推進会議に毎回参加している。地域ケア会議に参加し事例発表するなど、事業所の取り組みを伝えている。また、困難事例に関する相談にも、アドバイスや情報提供をもらうなどの関係性を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月毎に身体拘束廃止委員会で現在身体拘束が無いを確認している。また、委員会主催で職員会議の際に勉強会を行い、身体拘束のない施設作りができるように情報を共有している。	身体拘束廃止委員会で定期的に勉強会と振り返りを行っている。スピーチロック等禁止の対象となる具体的な行為の再確認をし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月毎に虐待防止検討委員会を開催し、虐待にあたる支援が無い確認を行っている。委員会主催にて職員会議の場で勉強会を行い、虐待の無い施設作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	安心サポートを利用されている方がおり、毎月対応することにより一連の実務を知ることが出来ている。また、外部の研修に参加し学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書に沿って分かりやすく説明するように努めている。解約・改定の際も理解・納得できるように十分な説明を行うように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に入居者代表・ご家族代表に参加していただき、意見や要望を言える機会を作っている。また、毎月の井戸端会議にて入居者の行きたい所や、食べたいものを聞き出し、外出行事などにかかしている。	利用料支払い時などで毎月担当職員から状況報告をし、便りや電話で家族から意見要望を聞いている。利用者とは井戸端会議で要望等を聞く機会を設けている。家族からリモート面会はできないかとの意見があった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1年間に1、2回代表者との面談の場を設け職員の意見を聞く機会を設けている。また、職員会議や、ユニット会議の中で意見が言えるような場を設けている。	年に1、2回個人面談をしている。また、職員会議やユニット会議の場で活発に意見要望が出ており、出された意見は検討し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に研修計画を作成し、職員自ら希望する研修へ参加できるように配慮している。また役職者等には能力に応じた研修へ参加できるように声をかけている。職務分担表を作成し、仕事内容の見える化に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別研修計画に沿って、本人の能力に見合った研修へ行けるように心掛けている。研修参加後は職員会議の場で報告し勉強した内容を共有できるようにしている。また、復命書を作成し回覧することで、会議を欠席した職員も情報共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内で開催される連携会議や連絡会に参加し、交流する場を作っている。また、半年に1回市内のグループホームと意見交換会を行い交流を深めている。また、交換実習も取り入れ、相互のサービスの質も向上しているが、コロナ禍の為開催が出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接で、本人の不安や困りごとを聞き出し、安心して入居へ繋げられるように努めている。また仏壇やタンス等馴染みの物を持ち込める旨を説明し、少しでも落ち着ける環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談にて不安に思っているご家族は多いため、なるべく分かりやすい説明を心掛けている。気になったことはいつでも電話連絡して良い旨をお伝えし不安を取り除く様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の現在必要なケアの状況を見極め、他事業所の紹介を行ったり相談にのっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の能力に合わせ、役割を持てる場面作りを行い、職員とともに協力しながら生活ができるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	居室担当者が月に1回顔写真つきの近況報告書を作成し、身体の状況や取り組みの様子などをお伝えしている。また、状況の変化があれば直ぐに電話にてお伝えしている。面会時にも近況をお伝えし、何かあった場合の協力を仰いでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者一人ひとりの生活歴を把握し、その方にあった支援が出来るように心掛けている。馴染みの理容店がある方は訪問理容ではなく、馴染みの理容に行けるように支援している。また、地域の催し物には参加をし、地域の方と触れ合えるような機会を作っている。	コロナ禍で直接の交流が難しい中、近くの芝居小屋のポスターをもらいお芝居の話をしたり、職員と馴染みの人や場所の話をしながらか関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を見極め、席を配慮している。トラブルがあった場合は席替えを行い、一人ひとりが落ち着いて生活を送れるように努めている。会話の難しい方には職員が間に入り会話の橋渡しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要であれば相談にのり、いつでも立ち寄れるようにお声がけをしている。長期の入院者に関しては、洗濯物を引き受けている。また、他施設へ移る際は今までの支援が変わらない様に情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の様子や会話の中で、一人ひとりの思いや希望などを把握するように努めている。意向などご自身で伝えられない場合は、表情にて気持ちを汲み取ったり、ご家族に趣味や好きなこと等を聞き支援へと繋げている。	日ごろの会話や関わりの中から思いや意向の把握に努めている。意向等伝えることが困難な場合は、家族に聞いたりその時の表情などからくみとり、対応を検討している。自家製のキムチを作りたい思いを実現するなど一人ひとりの思いを支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族・ケアマネより情報収集を行い、その方の生活歴を把握するように努めている。集めた情報は職員全員で共有できるように回覧している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、一人ひとりの出来ること・できないことを見極め、出来ることはなるべくご自身にて行えるように支援している。また、有する力によって役割を行えるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族の意見や要望等を聞きながら、現在の支援が本人にとって必要なものか、評価をしながら介護計画を作成している。また、担当者会議の中で職員の気づきについても検討を行っている。	本人・家族の要望を聞き、担当職員とともに関係職員で検討し、現状に即した介護計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリング、計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや変更案など伝達ノートに記載し、職員間で情報の共有が出来るようにしている。個別の記録については毎日記入を行い、特変等あった場合は、特記事項として記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ショートステイが出来る環境を整え、ご家族の急な要望にも応えられるようにしている。マンツーマンで介護が必要な場合は、職員の出勤時間を変更するなど柔軟な対応が出来るように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望に応じて理美容院へ行けるように支援している。併設施設での生け花教室や催し物など参加できる機会を作っているが、コロナ禍の為現在はできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も入居前のかかりつけ医で受診が継続して行えるように看護師を中心に行っている。受診の同行を希望されるご家族は同行をお願いし、医師からの説明を一緒に聞いていただくなどの対応をしている。	入所前のかかりつけ医を継続して受診しており、看護師を中心に受診対応している。家族も一緒に同行することもあり、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、早急に対応が出来る体制が出来ている。また併設施設にも看護師がいるため、相談や処置など継続的に行うことが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は杵築市独自の医療・介護情報共有シートにて情報を提供し、苑での支援方法を伝えている。また、カンファレンスを行う際は同席させてもらい、退院後の支援がスムーズに行えるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に入居者が重度化した場合における対応について説明を行い、その時が来たら再度話し合いを持つ旨伝えている。入院等で状態の変化がみられた場合は、早急にご家族と話し合う場を持ち情報共有・今後の意向を聞く様になっている。	入所時に、重度化や終末期のあり方について説明している。また重度化した場合、医師、本人・家族と話し合い、事業所でできることを十分に説明しながら、意向に沿えるよう支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えて職員会議の場で緊急対応の手順を確認・学ぶ機会を設けている。現在はコロナ禍で難しいが外部研修も取り入れ、学ぶ機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て防災訓練を行い、初期対応・通報・避難などを確認している。うち1回は夜間想定避難訓練を行い、夜間の場合の避難についても確認している。また、地域の協力体制については運営推進会議の場をお願いしている。	年2回、消防署の立会いのもと防災訓練をしている。うち1回は夜間想定訓練を行っている。備蓄品は隣接の法人の厨房と事業所に備蓄している	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービス向上・接遇マナー委員会を設置し、声掛けや対応についての話し合いを行っている。その中で出た意見は職員会議の場で報告し、丁寧な声掛けを行う様に周知している。また、排泄、入浴などプライバシーを損なわない様に配慮している。	サービス向上・接遇マナー委員会を設置しており、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう丁寧な言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で一人ひとりの能力に応じて自己決定が出来るよう環境作りに努めている。また、思いを伝えることが難しい入居者に関しては表情や様子を観察し、本人の思いをくみ取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の行事や入居者の状況にて、職員都合で支援を行っていることもあるが、なるべく入居者のペースで生活が出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居前に通っていた行きつけの理美容に行けるように支援を行っている。また、入浴の際は入浴準備を入居者にお願いしたり、一緒に選ぶなどの工夫をしている。入浴後は保湿クリームや化粧水を使えるように準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食委員会の中で食べたいものや食べにくかったものなどの意見を収集し、栄養士へと報告している。食事内容によっておにぎりを握ってもらったり、盛りつけをしてもらったりしている。	法人の厨房から届いた料理を利用者と職員と一緒に盛り付けや片付けをしている。給食委員会で利用者の意見や要望を栄養士に伝え献立に反映しており、また、おやつ作りなど食事の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量・水分量が把握できるように、別紙に記載し確認を行っている。能力に応じてトロミ剤を使用したり、水分ゼリーにて支援を行っている。お茶をあまり飲まない方には、他の飲み物を提供するなど工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・義歯洗浄の支援・口腔スポンジによる支援など一人ひとりの能力に応じて支援を行っている。夕食後は義歯洗浄を行い、義歯を清潔に保つように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックにて排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせたトイレ誘導を行っている。立位の悪い方は職員2人で対応するなど、なるべくトイレにて排泄が出来るように支援を行っている。	排泄のパターンを把握し、一人ひとりに合わせたトイレ誘導をし、トイレでの排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策として起床時に牛乳を提供し、排便を促している。牛乳の苦手な方にはコンクを飲用していただいている。また、入浴後にコンクを提供したり、日々の活動の中で散歩を促し排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴の準備を行い、なるべく入居者の希望に沿って入浴出来るように努めている。立位の取れない入居者に関しては職員二人対応にて行い、安全に入浴出来るようにしている。	毎日入浴の準備をし、本人の希望やタイミングで週に2~3回入浴の支援をしている。入浴を嫌がる時は対応を工夫している。また、ゆず湯やしょうぶ湯、入浴剤を使い季節感や温泉気分を味わったりと入浴を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ゆっくりと休めるように、今までの生活に合わせ照明の調整を行っている。夜間寝つけない場合はお茶を提供し、テレビを見ていただくなどの対応を行っている。日中も眠たい時は居室で横になれるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬が分かるようにファイルに綴じ、いつでも閲覧できるようにしている。また、入居者に合わせ、そのまま渡す、手に出す、口に入れるなど個々の状態にあった内服支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に趣味や好きなことなどを聞き、なるべく取り組めるように配慮している。また、外出や散歩を促し気分転換が出来るように努めている。役割として洗濯物たたみや、下膳等出来るように声掛けを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、人の多い所へは行けないので散歩やドライブを行い、外出出来るようにしている。面会も禁止しており、ご家族へ依頼も出来ない状況である。	施設周辺の散歩やドライブをその日の希望にそって出かけている。コロナ禍のため人に会わないような場所を考慮しながら景色を楽しんだりしている。地域の行事で「ひいな祭り」があり、ドライブで車窓から楽しめるよう工夫しながら外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設管理としているが、入居者の力に応じて買い物に行った際は財布を渡し支払いを行ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいとの訴えがあった場合は、電話が出来るように支援している。また、コロナ禍で面会が出来ない為、電話がかかってきた際は本人へと代わり、会話出来るように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月のカレンダー作りや季節感のある壁面を通して、季節を感じれる様に工夫を行っている。また、外気浴や散歩も取り入れている。トイレに関しては、使用後消臭スプレーを使用し臭いにも配慮をしている。	手作りのカレンダーや季節感のある壁面、花が飾られ、温度や空調の管理がされ、また、感染対策も徹底している。廊下には絵画や利用者の作品が飾られており、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを設置し、一人になれたり、気の合う方と会話をしたり、横になれるようにしている。また、渡り廊下にもベンチを置き外を見たり、外気浴が出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に馴染みの物や使い慣れた物を持ち込めれる旨説明している。布団は持ち込みをお願いしている。仏壇やタンス・写真など持ち込んでもらい、居心地よく過ごせる様に工夫を行っている。	居室には、使い慣れた布団や仏壇、タンス、写真など持参している。ベッドの配置など考慮し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内はバリアフリーになっており、段差の無い作りになっている。居室入り口には表札を飾り、ご自身の部屋が分かりやすいようにしている。またトイレもトイレと分かるように貼り紙をしている。トイレやふる場には手すりを設置し、少しでも自立した生活が送れるように配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491000057		
法人名	社会福祉法人 一心会		
事業所名	グループホーム やまが苑 西ユニット		
所在地	大分県杵築市山香町大字野原1405番地6		
自己評価作成日	令和4年2月14日	評価結果市町村受理日	令和4年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和4年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然環境に恵まれ、四季の移り変わりを感じながら、その方らしく穏やかに過ごしていただける様に努めています。一人一人に合わせたレクリエーションを取り入れながら、今の状態が維持できるように努めています。敷地内に養護老人ホームやデイサービスがあり、地域の行事等もお互いに協力しながら交流を図っています。コロナ禍のため散歩やドライブ等をとりいれながら気分転換を図っています。医療面では、近隣に協力病院があり、診療科目が多いのも安心です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホームやまが苑 東ユニットに記載】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と地域密着型に基づいた施設理念を掲げている。施設理念に関してはその時の状況に合わせて作り直し、実情に沿った支援を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域の祭りや催し物への参加をしていたが、コロナ禍の為地域との交流が出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	共用型デイサービスやショートステイを整備し、他事業所で受け入れの難しい認知症の方を受け入れられるようにしている。また、運営推進会議であがった意見を積極的に取り入れ参考にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナ禍の為、文書にて開催をしている。運営推進会議では、施設の現況報告・事故報告など取り組み状況を報告し意見を求めている。いただいた意見は早急に検討し、改善に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故があった際は報告を行い、困難事例に関しても相談をしている。また、市が開催する研修へ積極的に参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月毎に身体拘束廃止委員会で現在身体拘束が無いかを確認している。また、委員会主催で職員会議の際に勉強会を行い、身体拘束のない施設作りができるように情報を共有している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月毎に虐待防止検討委員会を開催し、虐待にあたる支援が無いか確認を行っている。委員会主催にて職員会議の場で勉強会を行い、虐待の無い施設作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	安心サポートを利用されている方がおり、毎月対応することにより一連の実務を知ることが出来ている。また、外部の研修に参加し学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書に沿って分かりやすく説明するように努めている。解約・改定の際も理解・納得できるように十分な説明を行うように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に入居者代表・ご家族代表に参加していただき、意見や要望を言える機会を作っている。また、毎月の井戸端会議にて入居者の行きたい所や、食べたいものを聞き出し、外出行事などにいかしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1年間に1、2回代表者との面談の場を設け職員の意見を聞く機会を設けている。また、職員会議や、ユニット会議の中で意見が言えるような場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に研修計画を作成し、職員自ら希望する研修へ参加できるように配慮している。また役職者等には能力に応じた研修へ参加できるように声をかけている。職務分担表を作成し、仕事内容の見える化に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別研修計画に沿って、本人の能力に見合った研修へ行けるように心掛けている。研修参加後は職員会議の場で報告し勉強した内容を共有できるようにしている。また、復命書を作成し回覧することで、会議を欠席した職員も情報共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内で開催される連携会議や連絡会に参加し、交流する場を作っている。また、半年に1回市内のグループホームと意見交換会を行い交流を深めている。また、交換実習も取り入れ、相互のサービスの質も向上しているが、コロナ禍の為開催が出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接で、本人の不安や困りごとを聞き出し、安心して入居へ繋げられるように努めている。また仏壇やタンス等馴染みの物を持ち込める旨を説明し、少しでも落ち着ける環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談にて不安に思っているご家族は多いため、なるべく分かりやすい説明を心掛けている。気になったことはいつでも電話連絡して良い旨をお伝えし不安を取り除く様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の現在必要なケアの状況を見極め、他事業所の紹介を行ったり相談にのっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の能力に合わせ、役割を持てる場面作りを行い、職員とともに協力しながら生活ができるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	居室担当者が月に1回顔写真つきの近況報告書を作成し、身体の状況や取り組みの様子などをお伝えしている。また、状況の変化があれば直ぐに電話にてお伝えしている。面会時にも近況をお伝えし、何かあった場合の協力を仰いでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者一人ひとりの生活歴を把握し、その方にあった支援が出来るように心掛けている。馴染みの理容店がある方は訪問理容ではなく、馴染みの理容に行けるように支援している。また、地域の催し物には参加をし、地域の方と触れ合えるような機会を作っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を見極め、席を配慮している。トラブルがあった場合は席替えを行い、一人ひとりが落ち着いて生活を送れるように努めている。会話の難しい方には職員が間に入り会話の橋渡しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要であれば相談にのり、いつでも立ち寄れるようにお声がけをしている。長期の入院者に関しては、洗濯物を引き受けている。また、他施設へ移る際は今までの支援が変わらない様に情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の様子や会話の中で、一人ひとりの思いや希望などを把握するように努めている。意向などご自身で伝えられない場合は、表情にて気持ちを汲み取ったり、ご家族に趣味や好きなこと等を聞き支援へと繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族・ケアマネより情報収集を行い、その方の生活歴を把握するように努めている。集めた情報は職員全員で共有できるように回覧している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、一人ひとりの出来ること・できないことを見極め、出来ることはなるべくご自身にて行えるように支援している。また、有する力によって役割を行えるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族の意見や要望等を聞きながら、現在の支援が本人にとって必要なものか、評価をしながら介護計画を作成している。また、担当者会議の中で職員の気づきについても検討を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや変更案など伝達ノートに記載し、職員間で情報の共有が出来るようにしている。個別の記録については毎日記入を行い、特変等あった場合は、特記事項として記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ショートステイが出来る環境を整え、ご家族の急な要望にも応えられるようにしている。マンツーマンで介護が必要な場合は、職員の出勤時間を変更するなど柔軟な対応が出来るように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望に応じて理美容院へ行けるように支援している。併設施設での生け花教室や催し物など参加できる機会を作っているが、コロナ禍の為現在ではできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も入居前のかかりつけ医で受診が継続して行えるように看護師を中心に行っている。受診の同行を希望されるご家族は同行をお願いし、医師からの説明を一緒に聞いていただくなどの対応をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、早急に対応が出来る体制が出来ている。また併設施設にも看護師がいるため、相談や処置など継続的に行うことが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は杵築市独自の医療・介護情報共有シートにて情報を提供し、苑での支援方法を伝えている。また、カンファレンスを行う際は同席させてもらい、退院後の支援がスムーズに行えるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に入居者が重度化した場合における対応について説明を行い、その時が来たら再度話し合いを持つ旨伝えている。入院等で状態の変化がみられた場合は、早急にご家族と話し合う場を持ち情報共有・今後の意向を聞く様にしてしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えて職員会議の場で緊急対応の手順を確認・学ぶ機会を設けている。現在はコロナ禍で難しいが外部研修も取り入れ、学ぶ機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て防災訓練を行い、初期対応・通報・避難などを確認している。うち1回は夜間想定避難訓練を行い、夜間の場合の避難についても確認している。また、地域の協力体制については運営推進会議の場をお願いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービス向上・接遇マナー委員会を設置し、声掛けや対応についての話し合いを行っている。その中で出た意見は職員会議の場で報告し、丁寧な声掛けを行う様に周知している。また、排泄、入浴などプライバシーを損なわない様に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で一人ひとりの能力に応じて自己決定が出来るよう環境作りに努めている。また、思いを伝えることが難しい入居者に関しては表情や様子を観察し、本人の思いをくみ取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の行事や入居者の状況にて、職員都合で支援を行っていることもあるが、なるべく入居者のペースで生活が出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居前に通っていた行きつけの理美容に行けるように支援を行っている。また、入浴の際は入浴準備を入居者にお願したり、一緒に選ぶなどの工夫をしている。入浴後は保湿クリームや化粧水を使うように準備している。また愛用している化粧品がある場合は職員が購入し用意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食委員会の中で食べたいものや食べにくかったものなどの意見を収集し、栄養士へと報告している。食事内容によっておにぎりを握ってもらったり、盛りつけをしてもらったりしている。利用者の方より朝鮮漬を作りたいと要望があり職員と一緒に作る機会がある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量・水分量が把握できるように、別紙に記載し確認を行っている。能力に応じてトロミ剤を使用したり、水分ゼリーにて支援を行っている。お茶をあまり飲まない方には、他の飲み物を提供するなど工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・義歯洗浄の支援・口腔スポンジによる支援など一人ひとりの能力に応じて支援を行っている。夕食後は義歯洗浄を行い、義歯を清潔に保つように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックにて排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせたトイレ誘導を行っている。立位の悪い方は職員2人で対応するなど、なるべくトイレにて排泄が出来るように支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策として起床時に牛乳を提供し、排便を促している。牛乳の苦手な方にはコンクを飲用していただいている。また、入浴後にコンクを提供したり、日々の活動の中で散歩を促し排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴の準備を行い、なるべく入居者の希望に沿って入浴出来るように努めている。立位の取れない入居者に関しては職員二人対応にて行い、安全に入浴出来るようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ゆっくりと休めるように、今までの生活に合わせて照明の調整を行っている。夜間寝つけない場合はお茶を提供し、テレビを見ていただくなどの対応を行っている。日中も眠たい時は居室で横になれるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬が分かるようにファイルに綴じ、いつでも閲覧できるようにしている。また、入居者に合わせ、そのまま渡す、手に出す、口に入れるなど個々の状態にあった内服支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に趣味や好きなことなどを聞き、なるべく取り組めるように配慮している。また、外出や散歩を促し気分転換が出来るように努めている。役割としてその方の能力に応じた軽作業を職員と一緒にしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、人の多い所へは行けないので散歩やドライブを行い、外出出来るようにしている。面会も禁止しており、ご家族へ依頼も出来ない状況である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設管理としているが、入居者の力に応じて買い物に行った際は財布を渡し支払いを行ってもらっている。金銭の入出が気になる方にはおこづかい帳の記録を一緒に行って確認を行ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいとの訴えがあった場合は、電話が出来るように支援している。また、コロナ禍で面会が出来ない為、電話がかかってきた際は本人へと代わり、会話が出来るように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月のカレンダー作りや季節感のある壁面を通して、季節を感じれる様に工夫を行っている。また、外気浴や散歩も取り入れている。トイレに関しては、使用后消臭スプレーを使用し臭いにも配慮をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを設置し、一人になれたり、気の合う方と会話をしたり、横になれるようにしている。マッサージチェアも設置しており希望された方には提供している。また、渡り廊下にもベンチを置き外を見たり、外気浴が出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に馴染みの物や使い慣れた物を持ち込めれる旨説明している。布団は持ち込みをお願いしている。仏壇やタンス・写真など持ち込んでもらい、居心地よく過ごせる様に工夫を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内はバリアフリーになっており、段差の無い作りになっている。居室入り口には表札を飾り、ご自身の部屋が分かりやすいようにしている。またトイレもトイレと分かるように貼り紙をしている。トイレやふる場には手すりを設置し、少しでも自立した生活が送れるように配慮している。		